

令和7年度 北海道旭川聾学校グランドデザイン

学校教育目標

一人一人が個性を生かし、心身ともに健康で心豊かな子ども

○自ら学び考える子ども

○豊かに表現し伝え合う子ども

○明るく思いやりのある子ども

○心と体がたくましい子ども

目指す教師像

- ・聾教育の専門性を主体的に高める教師
- ・事象をポジティブに捉え、チャレンジする教師
- ・ウェルビーイングの向上を意識する教師
- ・同僚性が高く学び合い、支え合う教師

学校経営方針

- ① 特別支援教育の専門性を生かした指導(学習指導、生徒指導、生活指導)実践
- ② 「みんなのウェルビーイング」の実現
- ③ 地域やろう・難聴がある方と共にある・作る学校
- ④ 専門性を生かした他校・機関との連携・支援

目指す学校像

「地域と共に進む学校」
「関係校と学ぶ学校」

- ・学校運営協議会
- ・ろうあ協会
- ・交流校
- ・各聾学校 他

今年度の最重点（※学校設定項目）

- ① 聴覚障がい教育をはじめとする特別支援教育の専門性を生かした指導力
(教科指導、生徒指導、生活指導)の向上と教育課程の編成（※関連～ 学力の向上、言語力 等）
- ② かかわる誰もが「ウェルビーイング」を実感できる学校作り
(※関連～ 人権の理解と尊重、安全・安心な環境、心理的安全性、いじめ防止、防犯・防災、 心と体の育成 等)
- ③ 地域やろう・難聴の方と連携しリソースを生かした、人や物・社会と関わる力の育成
(※関連～ キャリア教育、地域との交流、セルフアドボカシー、 ICT の活用、交流及び共同学習、他校・他地域、旭聾サポーターズ 等)
- ④ 効率的かつ効果的な業務の推進
(※関連～ 働き方改革、外部人材 や ICT の活用、蓄積資料の校内外での活用・共有 等)
- ⑤ 聴覚障がい教育をはじめとした特別支援教育のセンター的機能の発揮
(※関連～ 障がい特性の理解、説明・実践力 等)

様々な教育活動をととして

- 育成を目指す資質・能力を意識した日常の授業
- 他校と協働して実践し、他校から学ぶ交流及び共同学習
- 「毎日参観日」、「ペンタゴン交流」、「北海道聾学校との交流」等、外部を意識し、教育活動の根拠が明確な日常の実践 等

育成を目指す資質・能力

自己理解力

何ができるようになるか
(学校教育の基本)

- ・学習を支える言語力
- ・豊かな経験に基づいた知識
- ・知識の活用能力
- ・抽象的思考力の基盤
- ・判断力や自己決定力

コミュニケーション能力

何を学ぶか
(教育課程の編成)

- ・言語力、コミュニケーション力やセルフアドボカシーにつながる自己理解力
- ・各発達段階における標準する教育課程（幼児教育、小中学部の教科指導）
- ・幼児児童生徒それぞれの課題に応じた自立活動

幼児児童生徒をどのように支援するか
(配慮を必要とする児童生徒への指導)

- ・個別的教育支援計画の活用
- ・個別の指導計画（自立活動）の活用
- ・地域の多様な人材や社会資源を活用した体験学習やキャリア教育

どのように学ぶか
(教育課程の実施)

- ・子どもが主体的に向き合う学び
- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び
- ・地域と連携することによって、人に支えられる安心感をもちながらの学び

情報活用能力

何が身に付いたか
(学習評価を通じた学習指導の改善)

- ・個別的教育支援計画の目標
- ・個別の指導計画（自立活動）の目標
- ・成功体験や達成体験に基づいた自己有用感や自信
- ・全ての基礎になる生きて働く知識・技能
- ・主体的に取り組もうとする態度

学校研究課題

一人一人のことばの力を高め、学び合いを通して、自ら考える力を育てるための指導法の研究

令和7年度の旭聾の合言葉

幼児児童生徒理解と情報共有 を合い言葉に「ICT を活用」した授業改善に取り組み、幼児児童生徒の「学力向上」を図る。

※教職員の学校評価から導かれた合言葉。

論理的思考を育てる。

「なぜ、どうして」
日本語力、客観的に観る力 etc.

学校教育目標の達成